



あいかんきょう



2015/04/20

会報・第123号



「能登の春」：能登名物の黒い屋根瓦、
日差しを受けて艶やかな瓦がまぶしい。

提供：濱地光男氏
(株)ユニケミー

撮影地：石川県珠洲市三崎町 建物はランプの宿
撮影日：平成26年 5月13日

四季折々

昭和四十五年十一月の臨時国
会は、別名公害国会と言われ、この
国会で公害問題に関する種々の法
律が整備された。このことが愛環
協の発足する要因となったのであ
る▲水質汚濁防止法や大気汚染
防止法の制定により、特定施設を
有する事業所が、排水や排ガスを
測定・分析し、その結果を記録す
る義務が生じたため、測定分析を
業務とする会社が誕生した▲昭
和四十六年より法律が施行され
たのであるが、当初の分析方法は、
例えば重金属を例にとれば、吸光
光度法が主体で、今から見れば大
変手間のかかったやり方であった。
▲爾後、いろいろな努力を積み重ね
て今日があるわけだが、忘れては
ならないのはやはり、先人の果たし
てきた役割ではないかと思う▲社
会の進化と言うのは、ある日突然
進化した社会が出来るのではな
く、先人の残した伝統の上に立っ
て、更に優れた社会がつくられてい
く過程ではないかと思う▲西洋の
ことわざに、「巨人の背中に立った
小人は巨人よりも遠くを見わた
すことができる」というのがある▲
先の世代の考えを批判、修正した
としても、その背中に立って将来を
見る目が必要だと考えるのである。



委員会等活動報告

○総務委員会

平成二十七年向け「環境に関する喚起標語」の募集にあたり百二作品ものご応募を頂き、ありがとうございました。二月十八日に開催しました本年度第五回の総務委員会にて厳正な審査を行い、入選作品及び佳作作品を選出いたしました。また三月十二日に開催しました第六回の総務委員会では、標語のポスターデザインと次年度の名簿作成方法を確認し理事会上に上程いたしました。

総務委員長 大野 哲

○教育研修委員会

一月二十八日に十四名が参加しSOP研修会を開催しました。(株)ユニケミー中安史隆氏からSOPの重要性と作成方法の講義を受け、その後三つのグループに分かれ実際にSOPを議論しながら作りました。参加者同士の交流のある有意義な研修会となりました。

平成二十七年度も研修会を企画しております。環境測定分析の基礎情報や精度管理などの研修を提供していきます。講義編成や研修の仕組みを見直し皆さん

の要望をお聞きしながら更に有意義な研修会にしようと思えます。六月初めに予定の新任者研修会ほかに多数のご参加をお願いいたします。

教育企画委員長 服部 寛和

○企画委員会

平成二十六年年度第三回の企画委員会を一月十九日に開催しました。すでに決定している二つのテーマのうち、『研修会・講演会等への応援支援及びアンケートの実施』については二回のアンケートを実施し報告いたしました。もう一つのテーマについては急遽『女性技術者の座談会』に変更し次年度早い段階に実施できるよう検討しました。できれば七月開催できるよう準備します。

企画委員長 柴田 金作

○広報委員会

第四回広報委員会は平成二十七年二月四日に開催し、「あいかんきょう」二二三号広報誌の掲載記事について内容を協議し、このたび平成二十七年四月二十日に発行に至りました。

また、平成二十七年年度から掲

載する新企画について河野代表理事、大野総務委員長にも参加して頂き、決定することが出来ました。

平成二十七年六月十八日には恒例の「環境月間講演会」を開催いたします。どうぞご参加ください。詳細は後日お知らせいたします。

広報委員長 渡辺 敏紀

○技術委員会

☆水質・土壌ワーキング
排水・環境等の規準値の変更に伴い、下表のように規定集の見直しを行いました。規制が強化された項目については規準値の十分の一とし、緩和された1・1・ジクロロエチレンについては従来通りとします。(ただし、各測定機関の計量管理者の判断により変更も可能)

第一回共同実験を例年通り行う予定ですが、日程変更の意見も出ていますので、検討していきたいと思っております。

☆大気・臭気ワーキング

第二回共同実験を予定しております。項目としてはアルデヒド類または水銀を計画していますが、どこで行うのが課題となっております。

名称	対象物質	旧		新	
		基準値	表示下限値	基準値	表示下限値
水質汚濁防止法による排水基準及び表示下限値	カドミウム	0.1	0.005	0.03	0.003
地下水の浄化基準及び表示下限値	カドミウム	0.01	0.001	0.003	0.0003
公共用水域の水質汚濁に係る環境基準及び表示下限値	トリクロロエチレン	0.03	0.002	0.01	0.001
地下水の水質汚濁に係る環境基準及び表示下限値	トリクロロエチレン	0.03	0.002	0.01	0.001
土壌汚染対策法に係る地下水基準及び表示下限値	1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.002	0.1	0.002
土壌汚染対策法に係る土壌溶出量の基準及び表示下限値	1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.002	0.1	0.002

☆騒音・振動ワーキング
今年度は勉強会を計画していません。平成二十五年年度及び二十六年年度のアンケートからWGでテーマ検討し、次回の全体会議で決めたいと思います。

技術委員長 長尾 隆宏

○対外交流委員会

平成二十七年二月二十七日に第三回の委員会を開催いたしました。議題としては、今年度事業の総括について、施設見学会アンケート内容確認と次回への反省点、また、今年度定時社員総会時外部講演者の選定を行いました。

対外交流副委員長 鎌田 務

○ホームページ委員会

平成二十六年年度第五回、六回のホームページ委員会はそれぞれ平成二十六年十二月二十二日、平成二十七年三月九日に開催しました。ホームページの更新作業については平成二十七年一月十五日に実施した。第五回委員会では写真コンテストの秋作品の応募数が非常に少ない為、事務局より理事長名で会員に案内を再度送付依頼した。また委員長は理事会上において応募の要請をすることになった。

ホームページのマニュアルに

おいては個別詳細マニュアルの整備について必要なものをピックアップすることになった。
資料保管庫の整備においては理事会において各委員長と協議することになった。

第六回ホームページ委員会では写真コンテスト・秋季応募四作品の審査を実施した。冬季の応募も少ない状況なので改めて応募要請実施を決めた。

ホームページのマニュアルにおいて個別詳細マニュアルの整備について、必要なもののピックアップがなされ、委員会毎に作成整備することになった。

資料保管庫の整備については、各委員長と新年度より期限を定めて整備の検討を実施することになった。

また今回、ホームページのサーバーについて業者からの説明を受けた。委員会としては問題ないと判断がされ理事会に報告することになった。平成二十七年第一回の委員会の開催予定日は四月二十日に決まりました。

ホームページ委員長 金田 哲夫

○災害緊急時対応委員会

平成二十七年二月二十七日に第四回の委員会を開催いたしました。議題としては、新年度に計

画している、協会名簿作成時に緊急災害時名簿の更新内容について検討いたしました。

今後、総務委員会、理事会承認後、会員各社に発信の運びとなります。引き続き、災害緊急時の協力(災害協力認定)の確認を進めてまいります。愛知県からの期待にこたえるためにも皆様の協力をお願いいたします。

災害緊急時対応

委員長 鎌田 務



ブロック会議報告

第一ブロック

第一ブロック長代理

平松 正義

平成二十六年第二回ブロック会議を、二月十日午後十三時中九社十名の参加で行いました。

最初に、共立マテリアル(株)殿が新たに加入されましたことを紹介し、続いて河野代表理事報告の紹介と第三、四回理事会の報告をいたしました。その後、役員改選にともなう平成二十

七・二十八年度のブロック長選出を行いました結果、現ブロック長代理がブロック長となりました。

会議終了後、有志による懇親会を開催し、情報交換および交流を深めました。

第二ブロック

第二ブロック長 鎌田 務

平成二十六年第二回ブロック会議を、二月二十日(金)午後より協会事務局で、二十一社中十二社出席で開催しました。

第三、四回理事会報告、河野代表理事のお話紹介後、平成二十七年二十八年度役員改選に伴うブロック長選出を行いました。

会員各位の意見を議長が集約し、慎重に審議の結果(株)環境科学研究所代表取締役 林 昌史氏にお願いする事に決定しました。

その後、出席者全員にそれぞれの立場で、業界の現況、仕事の状況等を話していただきました。引き続き十二名の参加で懇親会を行い、次世代の経営者、管理職の意見交換が活発に行われ、非常に盛り上がりました。

今後も活発な意見交換が行われるブロック会議を期待し、ブロック長を退任とさせて頂きます。有り難うございました。

第三ブロック

第三ブロック長 柴田 金作

平成二十六年第二回の第三ブロック会議を二月二十六日に十社中七社の参加で実施しました。議事として二回の理事会報告及び代表理事報告の説明を行いました。また、今回は来年度から二年間のブロック長の改選を行いました。その結果引き続き藤吉工業がブロック長を務めさせていただくことになりました。

会議終了後皆様と懇親会を行いました。

第四ブロック

第四ブロック長 豊田 豪

第四ブロックの第二回ブロック会議は、平成二十七年二月十六日午後四時から五時まで愛環協事務局で十三社中七社七名の参加で開催しました。

会議の内容は、まず平成二十六年第三、四回理事会の報告質疑応答を行ったのち、河野代表理事より頂いた原稿を元に、最新の日環協の活動について説明を行いました。最後に次期ブロック長の選出を行い、出席者全員の了承を得て引き続き(株)アイエンス 豊田がブロック長を務めることに決定しました。

会議終了後は、五名で懇親会を行い親睦を深めました。

第五ブロック

第五ブロック長 大野 哲

平成二十六年第二回となる第五ブロック会議を、二月二十五日午後豊橋市商工会議所にて開催いたしました。ブロック会員十七社中十四社の出席で、手塚事務局長にご出席いただきました。初めに次期ブロック長の選出を行い、続いて河野代表理事報告を代読させて頂いた後、理事会及び各委員会の活動報告を行いました。また各委員の近況報告を行い、互いの情報交換をいたしました。

会議終了後、懇親会を開催し交流を深めることができました。

事務局からのお知らせ
六月までの行事の案内

○愛環協定時社員総会

平成二十七年五月二十七日(水)プリンセスガーデンホテル

○環境月間講演会

平成二十七年六月十八日(木)日本特殊陶業市民会館

*詳細は後日追ってご連絡いたします。

平成27年度 環境に関する喚起標語入選者一覧

	標語	氏名	所属
入選	技術は競走 社会は協奏 環境づくりは共創で	別所 宏紀	(株)イズミテック
佳作	日々の地道な改善で精度向上	安間 大剛	サンエイ(株)
佳作	次世代に 豊かな自然 残すため たゆまぬ努力で 技術向上	猪子 展弘	(株)ノリタケカンパニーリミテド
佳作	環境を守り未来をつくる正しい計量	桐山 佳也	サンエイ(株)
佳作	正しい知識に正しい手順 常に初心を忘れずに	近藤 史織	(株)愛研
佳作	精度管理 信頼を得る積み重ね	酒井美智子	(株)イズミテック
佳作	受け継ごう 確かな精度管理 高めよう 信頼と品質	高畑 絵美	(株)イズミテック
佳作	正確な分析結果は、知識と机上の整理整頓から	野田 景子	(株)愛研
佳作	高いモラルで 正しい計量 環境分析は 技術と自然のコミュニケーション	林 真紀子	(株)ノリタケカンパニーリミテド
佳作	分析機器 どんなに高度化しても 最後の砦は やはり人の眼と腕	松村 祐治	(株)ノリタケカンパニーリミテド
佳作	確かな計量、高まる信頼 みんなで守ろう 未来の為に	山中 智香	東亜環境サービス(株)

(佳作は氏名の五十音順)

平成二十七年年度喚起標語

平成二十七年年度の環境に関する喚起標語入選者が上記のとおり決定しました。入選は(株)イズミテックの別所宏紀氏です。おめでとうございます。

恒例になりました短冊に標語を収めましたので会員事業所等に掲示して頂ければ幸いです。

「平成二十六年年度 環境計量 事業団体合同研修会」に参加して

平成二十七年二月十九日に神奈川県横浜市で開催された首都圏環境計量協議会連絡会主催「平成二十六年年度 環境計量事業団体合同研修会」に参加しました。

首都圏環境計量協議会と交流のある北は北海道から、南は九州福岡県までの十一の県単が横浜に集まり、愛環協は河野代表



理事が出席し、私も広報委員として同行しました。

第一部では、各団体の紹介や活動状況などについての発表があり、それぞれの会員数や組織構成等の違いに驚くと同時に、愛環協の教育研修や広報活動等が他の県単に比べると非常に活発であることが良くわかりました。

第二部では、日環協として行政に対し「最低制限価格の導入を要望する件」について、活発な意見交換が行われました。最低制限価格の導入が適正価格の設定にプラスになっている成果や、一方で協会として精度管理や技術者育成をどう強化していくべきかといった話にまで発展し、議論は懇親会にまで継続されました。

懇親会は、横浜の中華街で開催され、ちょうど春節の時期に重なり、中華街はお祭りムード一色でした。懇親会会場にも獅子舞がきて、とても盛り上がりました。

愛環協の協会組織しか知らなかった私でしたが、各都道府県にも同様の協会があり、同じように課題を持ちながら頑張っていることが良くわかりました。このような県単が自由に集まった交流会は初めての企画だったのですが、参加された皆さんが大変有意義だったと感想を述べられていたのが印象的でした。



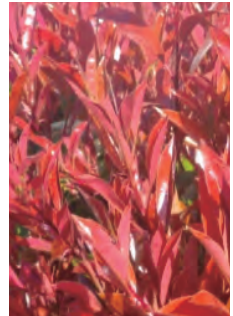
首都圏環境計量協議会

日環協関東支部では、七月に「輝く女性の力」をテーマとした環境セミナーを開催する予定です。愛環協でも女性技術者を集めた座談会や交流会を検討している矢先でもあり、非常にインパクトを受けました。

今回の合同研修会の参加を通じて、愛環協の活動にも貢献できるようなしていきたいと思

ます。

(文責 市川 ゆかり)



ベニカナメ3.26撮影

研修会聴講記

SOP (標準作業手順書)

研修会に参加して

サンエイ株式会社

環境事業部測定分析グループ

安間 大剛

一月二十八日に開催された「SOP研修会」に参加しました。研修会の内容は、午前中にSOPの目的・具体的な作成手順や注意事項について講義を受けました。午後は、実際にSS分析のSOPを、グループ毎に作成し発表しました。

講義内容で特に印象に残ったのは、SOPの伝達手段として「誰にでも理解出来る文章で、解釈が一つしかない文にする」ということでした。

例えば、SS分析の公定法では「ろ過材」は、「ガラス繊維ろ紙、有機性ろ過膜又は金属性ろ過膜」と記載してあります。これを

そのままSOPに記載すると、初めて分析する人はどのろ過材を使用しているのかわかりません。講義では、経験のない人でも理解できるように、メーカー名・型番や数量等具体的に記載することでした。

今までは、その様な事を意識して作成した事が無かったのでとても印象的でした。

SOPの目的の中で、SOPとは「教育や訓練のテキスト」というお話もありました。

私の仕事を振り返ってみると、口頭で説明して教育したつもりになっていた作業を思い出し、SOPに追加しなくてはいいけないと気付く事が出来ました。

また、同じグループの方々の雑談で、同業種ならではの共感出来るお話しや、普段の仕事内容・会社の様子など楽しくお話し出来たのも研修会へ参加して良かったと思える一つです。

今回の研修会に参加して、SOPの目的や作成手順が明確になり、とても充実したものになりました。

今後、このような研修会には積極的に参加していきたいと思

います。

「計量証明事業所への立入り検査について」最新情報」

を受講して

株式会社環境科学研究所

分析事業部 大西 卓宏

愛知県産業労働部産業流通課 主幹 藤重氏には、昨年に続き、二回目のご講演をいただきました。講演内容は、平成二十六年立入り検査の概要や指導事項の他、立入り検査を行う側の視点で、より良い立入り検査を行うための工夫や課題についてでした。また、他県の立入り検査の実態について、愛知県が主導して行った全国アンケートの結果についてもご説明いただきました。

講演の中でも触れられましたが、計量証明事業者の中には違法性(法令違反)に対する認識が甘く、モラルの低い計量士もみられるとのこと。計量証明事業者に対する信頼が揺らいでいるとも言われています。各自が真摯にこの講演の内容を受け

止め、法令順守を喚起していくことが、業界全体の信頼回復に繋がると思いました。



皆さんしっかりと受講しています



フットサル交流試合が開催 株式会社環境科学研究所 営業部 三宅 直也

この度、このような歴史ある機関紙上に掲載して頂けることを大変恐縮に感じておりますが、先日、愛知県環境測定分析協会の会員企業様とフットサルの交流試合を行いましたので、そのことを少しだけご紹介させていただきます。

私は、環境科学研究所のフットサル部の部長をしております、三宅直也と申します。二〇一四年六月某日、ワールドカップブラジル大会で世界中が沸き返っている頃、私たち、環境科学研究所のフットサル部は、数人の有志で結成されました。チーム名は「ラボ・ガランチード」意味は「ここでは割愛させていただきます。誤解の無いよう予め申し上げます。おきますが、決してサッカー人気に乗ったミーハーなものでは無いということだけはご理解願います。かつ、いいことを言わせて頂ければ、フットサルを通して社員同士が楽しみながら交流を図り、本業の仕事においてもお互いにフォローし合い、より良い仕事をやっていくという目的としています。

子二名の計十四名月に一〜二回の練習を行っています。前置きはこの辺りにして、交流試合についてご紹介させていただきます。

交流試合を行うことになったきっかけは、昨年の秋、弊社フットサル部の活動を河野代表理事が知ってくださり、東海技術センター様におかれましては、フットサル部が活動しているということから、是非交流試合をといたことが始まりでした。そして、愛研様も交えて、三社による交流試合を昨年十二月十三日に行うことができました。寒い中ではありましたが、東海技術センター様からは十名、愛研様からは五名、弊社からは八名の参加者がありました。サッカー経験者・未経験者・年齢・性別関係なく、たったひとつのボールを必死に追いかける中で、プレーの質はさておき、私たちは皆童心に返り楽しみながら怪我も無くプレーすることができました。もちろん、素晴らしいプレーも随所に見られ、特にゴールを決めた瞬間の興奮は言いようのないものでした。このように、愛知県環境測定分析協会の会員企業様とスポーツを通して、素晴らしい交流ができたと感じています。

そして、交流試合の話はさらに広がり、イズミテック様、東亜環境サービス様、弊社の三社による交流試合が、今年に入つて二月七日に行うことができました。イズミテック様におかれましては、わざわざ豊橋から名古屋まで遠征して頂き、大変にありがとうございました。この日は、イズミテック様からは八名、東亜環境サービス様からは七名、弊社からは七名の参加者がありました。この試合に向けて各社準備をしてきた様子で、かなりいいゲームができたと思います。また、プレーに性格が表れる場面もあり、仕事上でのお付き合いいしかなかった方々の新しい一面も発見でき、私個人と致しましても非常に有意義な時間を過ごすことができました。皆様、本当にありがとうございます。

今後と致しましても、このような会員企業様との交流は大事にしていきたいと思っております。交流試合はもちろん、参加して頂ける企業様が増えれば、トーナメント戦もやってみても良いのではと考えていますが、まずは、交流試合のお誘いなどお気軽に声を掛けて頂ければと思います。皆さん、是非一緒にフットサルをしましょう！

今回の交流試合をさせていただきます

た各社のチーム代表者を、以下ご紹介させていただきます。

- (一) 東海技術センター 小管様
- (株) 愛研 正木様
- (株) イズミテック 中井様
- 東亜環境サービス(株) 日野様



右端8番は河野代表理事、センター2番は広報委員長 二人併せて120歳超え



後列右端 筆者

環境・時の話題

「STAP細胞事件について」

一 はじめに

二〇一二年にノーベル賞を受賞したiPS細胞に続く新たな万能細胞として、STAP細胞が発表されたのは、昨年一月のことです。当時は、ノーベル賞候補とも言われた研究内容だけでなく、若くして理研で研究リーダーを務める発見者の小保方さんの容姿や、割烹着を着て実験すること、カラフルな壁にムーミンのステッカーが貼られた研究室なども話題になり、新聞やTVで連日大きく取り上げられました。しかし、発表直後から、ネイチャーという世界で一流の科学雑誌に掲載された論文に、データの不正や捏造の疑惑が生じ、途中には再生医療分野で著名な共同研究者の痛ましい悲劇も起きてしまい、最終的には論文は取り下げ、STAP細胞は存在しなかったという、世界の科学史上に残るスキャンダルに発展しました。今回は、STAP細胞事件について考えてみたいと思います。

二 幹細胞とは？

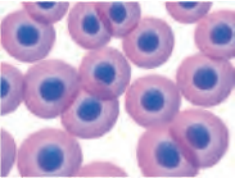
人の髪の毛や爪はのび、日焼

けた皮膚も時間がたてばもとの色に戻ります。これは、人間の体中に存在する「幹細胞」という特殊な細胞が、絶えず新しい細胞を供給しているからです。普通の細胞は、細胞分裂によって自分と全く同じ細胞のみをつくり増殖しますが、幹細胞は、細胞分裂によって幹細胞以外の細胞を生産することができます。このように幹細胞が元の細胞とは異なる別の種類の細胞に変化することを「分化」といいます。幹細胞には様々な種類のものがあり、それらは、毛、皮膚、各種臓器、神経、筋肉、血液などの体内の組織のいたるところに存在しています。

普通、それぞれの幹細胞は、作ることのできる細胞が決まっています。例えば、皮膚幹細胞は、その名の通り皮膚を構成する細胞のみをつくっています。これらの幹細胞は単能性であるといえます。ある幹細胞のみを分離し、培養して特定の細胞を増殖し、体の障害がある部位に移植する、再生医療の研究もすすんでいます。

三.ES細胞とは？

体中の組織に存在する普通の幹細胞は、各自が担当する組織の細胞にしかなることができます。



せんが精子と卵子が合体して一週間程度の初期の受精卵(胚中)から取り出した胚性幹細胞(Embryonic Stem Cell)。「ES細胞」は、約200種類の細胞になることができます。この能力を多能性といえます。受精後すぐの受精卵中の細胞は、数日間同じ細胞分裂を繰り返すだけです。その後何種類かの異なる役割をもった細胞に分化します。その後、細胞分裂を繰り返して、分化が進行し、体内の様々な組織や器官が造られ、人間の全体像をつくっていきます。ES細胞は、生体の多くの部位の細胞に変化する(分化する)能力(多能性)をもっているため、白血病、糖尿病、パーキンソン病などの、正常な機能を失った細胞をES細胞からつくる、再生医療や臓器移植への利用が研究されています。

四. iPS細胞とは？
これまで見てきた、分化することができ細胞、幹細胞は、多能性をもつES細胞も含め、体内にもともと備わっている天然の幹細胞で、体性幹細胞といえます。それに対し、人工的につくりだしたものが人工多能性幹細胞(Induced Pluripotent Stem Cell:「iPS細胞」)です。人の体をつくっている細胞のほとんどは、分化が終わった状態です。普通、分化したそれぞれの細胞は、別の種類の細胞には戻りません。分化した細胞に、新たに分化する能力をもつ幹細胞に逆戻りさせることを「初期化」といいます。

動物の分化しきった細胞は初期化することができないという常識を打ち破ったのが、一九六〇年代に開発されたクローン技術です。そこでは、もとの動物(オタマジャクシ)Aの分化しきった細胞から核を取り出し、別のオタマジャクシBの核を取り除いた未受精卵に移植することにより、もとの動物Aと全く同じ遺伝情報をもつクローン動物をつくることができます。つまり、卵子を使えば、分化した細胞を初期化し、多能性をもった幹細胞に戻すことができたのです。さらに、一九九〇年代には、

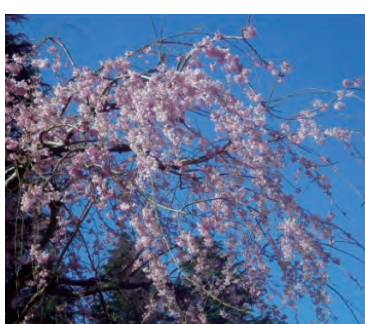
クローン羊のドリーが誕生し、哺乳類の細胞も初期化できることが証明されました。さらに、ノーベル賞を受賞した山中教授は、卵子を使わずに、人の皮膚から取り出した分化し終わった普通の細胞中に、ES細胞に存在していた分化や多能性に関連する四つの遺伝子を導入することにより、分化した通常の細胞を、ES細胞のような分化する能力をもった幹細胞に「初期化」することができたのです。

五. STAP細胞問題
STAP細胞は、発表当初は、遺伝子操作によるiPS細胞の手法と異なり、マウスの細胞(脾臓のリンパ球)を弱酸性溶液による刺激を与えるという単純な方法によりつくりだされた、iPS細胞と同じような人工的多能性幹細胞ということでした。しかし、論文中で、STAP細胞を作成した後の、多能性を証明

する種々の実験に用いられた細胞が、STAP細胞作成に用いられた当初のマウスとは異なる遺伝子配列であったことや、人為的に途中で混入されたES細胞である可能性が高いことなどが判明し、STAP細胞は存在しないことがわかりました。

六. 参考文献

- ・「高校生からのバイオ最前線」 日本評論社
- ・「すごい！iPS細胞」 日本実業出版社
- ・「捏造の科学者STAP細胞事件」 文藝春秋
- (文責 大場 恵史)



やっぱり春は桜 3.26撮影

はだか祭り(尾張大國霊神社(難追神事))に参加して

(財)東海技術センター

山本 敦恵

我が家の二人の小学生の息子

達は、所属しているボーイスカウトの育成母体が国府宮神社であるご縁で、ここ数年、国府宮はだか祭りに参加しています(稲沢市内の小中学校は、はだか祭りの日はお休みになります)。

子供達のはだか祭りは、奉納用の餅つきから始まります。お祭りの前々週の日曜日にボーイスカウト一同が集まって国府宮神社の境内で餅を搗きます。鏡餅の上下の餅とその上に載せる菱餅、全部で三十四臼、六十八升分の餅です。二基の臼で全て人手で搗きあげます。低学年の子供達は杵を持ち上げるのもやっ

とですが、六年生以上にもなると小気味良い音を立てて搗いていきます。次々に搗き上がる餅を型枠に入れ、さらに捏ねてまとめて、直径1m程の鏡餅に仕上げます。

この餅を一週間程かけて固め、はだか祭りの前々日に国府宮神社に奉納します。今年はいにくの雨、初めてレインコートを着用しての奉納になりました。

はだか祭りの当日は「裸男」になって笹を奉納します。はだか祭りは、旧暦の一月十三日に執り行われるため、毎年日程が異なります。今年三月三日。早い

年と遅い年には一ヶ月程の差があるのですが、今年のはほほ最も

遅い開催日でした。おかげで当日は穏やかな天気、下帯姿になった裸男達は「今年暖かい！」と嬉しそうでした。

朝一番に自宅のお風呂で身を清めた子供達は凛々しい(?)下帯姿になり、鳥肌を立てながら、「お宿」から出てきます。お宿は裸男達のお世話をする場所、国府宮ボーイスカウトの子供達は神社近くの隊長さんのお宅でお世話になっています。

次々に下帯に着替えた子供達と付き添いの大人達が集合し、記念写真を撮ったらいよいよ出発。特別に、神男経験者で構成される鉄鉾会の方々にご先導いただき、奉納笹を携えて、掛け声も勇ましく参道を目指します。沿道の観客の方々の声援を受け、寒さを振り払うように「わっしょい、わっしょい」と練り歩

きます。楼門をくぐり、待ち受ける神社の方々に本来なら無い、お清め?の水をかけられつつ、笹を本殿に無事に納めました。本殿前で、小学校入学前の子供から青年まで皆揃って万歳三唱。

付き添う私たち父兄も一緒です。寒い中、皆本当に頑張りました。小学生の子供達は神男に触れに行くことは、まだできませんので、午後からは町内の笹奉納の見送りに行きます。子供達は裸

男達からなおい布を分けてもらうのが楽しみで、次々にもらい歩きます。皆さん、大きくなったら一緒に出ような」と声をかけてくれます。稲沢で生まれ育つ子供達がこうして地元のお祭りに親しみ、参加することで一〇〇年以上前に始まったこのお祭りは今に至り、引き継がれてきたと実感します。また町内の方々と一緒に参加することで地域の絆も深まります。我が家の息子達も伝統を受け継ぐ一員に育ってほしいと願い、来年は町内の笹奉納にも参加しようかな、と眩く長男を嬉しく、頼もしく思いました。



ちびっこの祭り姿はかわいすぎ



愛知県環境部からのご案内

愛知県環境部より愛環協へ協力要請があった「もりの学舎(まなびや)」の特別企画に、愛環協及び一般財団法人東海技術センター・株式会社環境科学研究所の二社が参加協力を行いました。特別企画の概要は次の通りです。

【概要】

モリコロパーク内にある「もりの学舎(まなびや)」では、四月二十九日(水)及び五月二日(土)から五月六日(水)までの五日間に、ゴールデンウィーク特別企画として、インタープリターと一緒に自然とふれあう「もりのツアー」や「あそび工房」などのイベントを実施します。

編集後記

一三三号では「賛助会員の紹介」や「計量証明事業所の紹介」の記事は、ほぼ出尽くした感があり掲載していません。ただ掲載したい事業所様がいましましたら、遠慮なくご連絡ください。

広報委員会では今後、自治体や他団体が主催する環境に係るイベントのお知らせを積極的にを行い、そのレポートを掲載していきます。まずは五月十六日に開催される「春の藤前干潟クリーン大作戦」のチラシを同封させて頂きました。

最後に私的なことで恐縮ですが、広報委員長として一期(二年)務めました。当刊の編集が最後の仕事となりました。二年間の皆様方のご協力に感謝申し上げます。至らぬことも多々あったと思いますが、ご容赦を頂き、また今後も、皆様に愛環協機関誌「あいかんきょう」をどうぞ愛読して頂きたくお願い申し上げます。二年間どうも有難うございました。

(文責 渡辺 敏紀)

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会
代表理事 河野 達郎
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (一社)愛知県環境測定分析協会
広報委員